

福島原発震災から 4 ヶ月が過ぎた。炉心熔融を起こした原発の安定化にはまだ程遠く、依然として毎時 20 トンを越す冷却水を注入し続けなければならない状況は変わらない。チェルノブイリ事故の約 30% に及び放射能を撒き散らした福島第 1 原発は福島県始め近隣地域に深刻な汚染をもたらし、農業や畜産業を破壊したばかりでなく、地域社会と家族を分断している。汚染は下水処理場や瓦礫処理、汚染食品や汚染した腐葉土などの流通を通じて全国に拡散し始めている。今後長く続く放射能汚染とどのように向き合い、未来を作るべきか。

● 責任は明確にすべきである

放射能汚染が様々な分野で広がるにつれ、政府は今「ここまで汚染が広がってしまったのだから、それを受け入れるしかない」と国民に強いている。確かに汚染は広がった。福島以外にもホットスポットはあり、汚染牛の流通は全国化した。台所やトイレから排出された汚水や側溝から流入した汚水は下水処理場で高濃度の放射能汚染汚泥を生じ、国は 8000Bq/Kg 以下なら埋め立ても認める方針だ。今後、様々な経路を通じて、放射能は広く全国に広がっていくだろう。福島前と福島後の日本は違った世界にならざるを得ない。ウクライナの汚染地域の人々が自分達を「チェルノブイリ人」と呼んだことを思い出す。しかし、こうした事態を受け入れざるをえないことと、それをもたらした者達の責任を曖昧にすることは、厳しく區別しなければならない。

● 内部被曝を軽視してはならない

マスコミに登場する長崎や広島の前専門家、特に医療関係者や放射線専門家と称する人々は、100 ミリシーベルト以下なら問題ない、としきりに吹聴している。これは大きな間違いである。彼等は原爆の被曝データを神聖化し、チェルノブイリに学んでいない。チェルノブイリの影響の 70~80% は内部被曝である。これを踏まえ、ウクライナは事故から 10 年目に食品の基準を大幅に変えた (表)。

● 危険な日本の暫定基準

表をみれば日本の暫定基準が如何に酷いものか一目瞭然である。現在、基準値以内の野菜や肉、魚などが既に流通網を通じて広く全国に出回っている、と考えるべきである。今話題の汚染牛肉の全頭検査でも、Kg あたり 499Bq 以下のものは出回るはずで、その結果は明らかである。

食品名	97 年改定 ウクライナ	日本の 暫定基準
飲料水	2	200
パン	20	500
ジャガイモ	60	500
野菜	40	500
果物	70	500
肉類	200	500
魚	150	500
ミルク・乳製品	100	200
卵	6 (1 個)	500 (Kg)
粉ミルク	500	500
野生ベリー・キノコ	500	500
幼児用食品	40	500
放射性セシウムについて：単位はベクレル/Kg		

今後、日本人は薄く広く被曝することになるだろう。それは誰にも止められない。それを止めるには早く暫定基準を改定するしかない。それを可能にする筈だった食品安全委員会は、この暫定基準を追認するに留まった。これでは国民の将来が危うい。

● ゆっくりと、しかし大河は流れる

一方、国民の意識は確実に変わりつつある。原発に頼らないエネルギー社会の実現に向けて、今後様々な取り組みが加速するだろう。福島県は原発推進をやめ、持続可能エネルギー推進を決めた。私たちが支援している南相馬市もその方向で政策を検討しつつある。7 月に訪問したウクライナで、ナロジチを抱えるジトーミル州知事は「ナロジチ菜の花 PJ の成功を評価し、来年度から州内で 30 万 ha の菜の花栽培とバイオエネルギーを推進する」と公表した。世界は確実に変わりつつある。
(河田)